

一般質問

議員5人

町政を問う

一般質問は、執行機関が提出した議案と関係なく、町の行政全般にわたって、議員個人が執行機関に質問し、見解を求めるものです。

吉岡町議会では、質問および答弁をあわせて、1人60分以内の持ち時間があります。

本会議の様子を生中継、
録画でも配信。



アクセス方法は

吉岡町議会

検索

■富岡 大志 議員（14ページ）

1. 小・中学校の課題に関して
2. 再犯防止の推進に関して
3. ごみ処理の課題に関して

■廣嶋 隆 議員（15ページ）

1. 渋川地区広域市町村圏振興整備組合の最終処分場候補地選定について
2. 林道栗籠井堤線の延伸、町道建設について
3. 災害時応援協定について
4. 押印廃止の取り組みについて

■富岡 栄一 議員（16ページ）

1. 所有者不明の土地について
2. 高齢者ニーズ調査について
3. 公園について
4. 防犯カメラについて

■小池 春雄 議員（17ページ）

1. 自治体SDGsの取り組み
2. 就学援助制度の啓蒙けいもう
3. 借地の実態と確認

■飯島 衛 議員（18ページ）

1. 防災関連について
2. カーボンニュートラルについて
3. 通学路の合同点検について
4. 教育関連について
5. 吉岡バイパスの延伸に関して
6. 駒寄スマートIC西側の産業団地に関して



とみおか たいし 富岡 大志 議員



録画映像は
こちらをCHECK

スクールカウンセラー派遣増加を

答 人的確保が難しい

問 現在、小・中学校でスクールカウンセラーへの相談を申し込んでも、2カ月待ちの状況。派遣日数増が必要なのは。

答 教育委員会事務局 長 スクールカウンセラーは県費での任用で、町には年間84日の派遣となっている。

相談を希望する家庭が増えていることに加え、コロナ禍で今まで以上に心のケアを必要とする児童・生徒が増えている。この状況から、町費を使い、スクールカウンセラーの各校週1日の派遣を、年度末まで実現できる体制を整えている。さらなる

派遣日数増は、予算もあるが人的な確保が難しい。

問 不登校の児童・生徒が、授業のある日に町の図書館に来た場合、教育委員会としてどのような対応をとるのか。

答 教育委員会事務局 長 町の図書館に来館した児童・生徒の

町と保護司の綿密な連携を

答 できる限り連携強化に取り組む

問 町と保護司の連携を綿密に進めていただきたいが、町としてはどのように考えるか。

答 町長 犯罪や非行をした人たちと、お互いに信頼関係を

築きながら更生を助けている保護司の皆さんに、心から感謝申し上げます。地域福祉計画の基本理念に掲げる、地

様子が、明らかに自然で保護をしたほうがよいと思われる場合などには、何らかの対応を行うことが考えられる。そのような場合以外、利用者の秘密を守るという観点から、利用者本人から何らかの自発行動がない限り、基本的にはそっと見守るということになる。



学校を休んで来館しても、基本的にはそっと見守る（吉岡町図書館）

域共生社会の実現という目標に向けて、更生保護活動の果たす役割の重要性は強く認識している。町としても、できる限り連携強化に取り組んでいく。

問 保護司会との定期的な情報交換の実施と、町が保護司会事務局として支援できる体制づくりへの考えは。

答 介護福祉課長 保護司会の活動に関しては、町としてもさらなる連携が必要と考える。まずは、町の事務局において定期的に保護司会と意見交換を行う機会を設けたい。

今後の支援体制づくりについては、どのような行政の支援が可能か、保護司会と一緒に課題を見つけ協議して

問 生ごみの減量化にいききたい。

答 生ごみの減量化については、家庭用生ごみ処理機の購入補助より、生ごみの水切り器具のほうが、低予算で多く配布できて効果があるのでは。

答 住民課長 安価な器具があれば、イベントなどの機会に啓発物品として利用できるか検討していきたい。



ひろしま たかし
廣嶋 隆 議員



録画映像は
こちらをCHECK

第3回選定委員会の内容は

答 最終処分場の形態など説明

問 第3回候補地選定委員会の内容は。

答 町長 令和3年12月22日に開催、※最終処分場の形態や、候補地の面積の変更、環境影響調査をする考えなどについて説明。

問 候補地選定にあたって、町は基本方針を立てたのか。

答 住民課長 町の基本方針は出していない。

問 候補地選定に向けた町の具体的な取り組みは。

答 住民課長 当初予定より遅れが生じ、本年度中に広域組合への候補地報告が行

ない。

えない。今後は、地元説明会の開催や候補地ごとの評価を進めていきたい。

問 林道栗籠井堤線の町道建設について、関係機関との進捗状況は。

答 町長 渋川土木事業所との意見交換は、今年1月にも実施。県事業における、吉岡町に関する主要事業の概要説明を受け、さまざまな意見交換を図った。

問 産業観光課長 洗

い越しによる方式は許可の見込みがない。解決策は、今の段階では実現性のある具体的な方法はない。

答 産業観光課長 洗

災害時の応援協定締結先は

答 前橋市と締結

問 災害時応援協定を締結している市町村は。

答 町長 平成9年3月に前橋市と「災害時における相互応援に関する協定書」を締結。

問 被災地への応援職員

の派遣実績は。

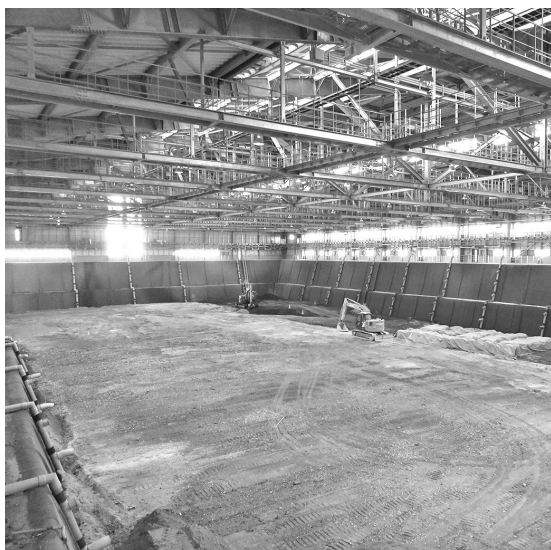
答 総務課長 2011年東日本大震災の際に、4月から8月にかけて、合計3人の職員を宮城県女川町に派遣。

問 被災地への応援物資の実績は。

答 総務課長 東日本大震災時で、大樹町からの要請を受け福島県相馬市へ食料などを搬送。平成28年8月

台風10号が大樹町を直撃し、「給水袋」を送付。令和元年台風19号では、大樹町からの要請を受け相馬市へ飲料水を届けた。

問 被災地への応援物資の実績は。



工コ小野上処分場埋め立て地全景
(埋め立て期間令和11年まで)

三二解説

※最終処分場がなぜ吉岡町に
広域事業として昭和47年4月1日から開始。関係8市町村の持ち回りで焼却灰などの埋め立てを行う。最終処分場の設置場所は、昭和56年1月28日当時の8市町村で協定書の締結がなされ、用地選定順位として「榛東村、小野上村、伊香保町、赤城村、北橋村、子持村、渋川市、吉岡村」の順位が決定。渋川市の合併により改めて平成20年2月8日に吉岡町・渋川市・榛東村で処分場の用地選定の協定が締結。順位として「渋川市・吉岡町・渋川市・榛東村」の順番となった。これに基づき次期処分場は合併後の渋川市となり、平成21年1月に候補地として小野上処分場の覆土置き場を決定。現在の工コ小野上処分場となる。経緯に基づき次回は吉岡町となる。